



Bell Friend

鈴鹿短期大学 鈴友会会報 No. 2
平成 20 年 5 月 20 日発行



ページ紹介



- ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
鈴友会会長、鈴鹿短期大学名誉会長・学長
- **特集** 鈴鹿短期大学創立 40 周年の歴史・・・・・・・・・・・・ 3
- 母校からのお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
同窓生入試制度導入について
免許更新について
- 平成 18 年度鈴友会総会 報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
昭和 50 年代 同窓会開催
新役員 紹介
- 会計報告及び事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 平成 20 年度鈴友会総会のご案内
特別講演
総会・茶話会

ご挨拶



鈴友会会長

増田 文子
(昭和 44 年度卒業)



名誉会長

学長 佐治 晴夫

鈴友会の皆様、ご無沙汰いたしております。待望久しい会報誌 Bell Friend 2 号が出来上がりました。昨年の総会の模様や学校の様子等を織り交ぜて編集してみました。どうかご覧になって下さい。

母校におかれましては創立 40 周年を終えられ、平成 19 年度卒業生 132 名を送り出されました。同窓会の陣容も 7,079 名という大所帯となり嬉しい悲鳴を上げております。短大、草創期に卒業した私たち団塊の世代にとって、其の当時と比較すると何事にかけても格段の差異が見受けられ驚きの限りです。

近年とみにいわれている不確実な時代、そしてまた少子高齢化社会において要求されているものは、何か。学科学部の変遷、地域に根ざした公開授業しかり、時代のニーズに応じた需要と供給のバランスが必然と求められ、母校としても、多大なご尽力をなさっておられるのが感じられます。時代がどのように変わろうとも私たちが一番光り輝いた一時期を過ごしたかけがえのない学び舎に、今もかわりはありません。今までも凜としたものとして、皆様の心の中に残っていると思います。私たち同窓会においても、この情報化社会において何かお役に立てる事はないかと日夜考えを巡らせております。母校がホームページを立ち上げられ、同窓会のページもできました。おおいに活用していきたいと思っております。

皆さん！母校に訪れ、ご自分の肌で感じていただくとともに、いろいろな情報をお寄せ下さい。お待ちしております。

7 月開催の総会には、佐治学長に特別講演をしていただき、その後総会、茶話会など準備を進めております。

懐かしい皆様方の再会を楽しみにするとともに、旧交の深まる場であることを切に願っております。

あなたの体は何からできているのでしょうか？体の大半は水、その組成は水素と酸素の結合物です。水素は宇宙の中に一番豊富に存在する元素ですが、酸素は水素のかたまりである星たちが燃えるプロセスで合成されたものです。そして、星が燃やすものがなくなって、超新星爆発というかたちで最後を迎えたとき、宇宙空間にばらまかれた星のかけらから誕生したのがあなたです。私たちの体は、みんな星のかけらからできているということですね。ところで、あなたの体とは、あなた自身の所有物でしょうか。おそらく、体とは皮膚で覆われた内側の部分のことをいうのですが、よく考えてみると、あなたがあなた自身であるためには、過去からの記憶、未来への夢などが脳の中につまっっていて、はじめてあなたになります。ところが、それらの記憶や夢は、あなた自身と、まわりとのかかわりの中で生じたものですから、私たちは、私たちをとりまく環境とすべてを分かち合いながら私として存在していることになります。自分で生きているのではなく、みんなで生きているということですね。呼吸も心臓も、私たちが気づかないうちに、誰かが動かしているのですね。自然の分身という意味で、自然の「自」と、分身の「分」をあわせた表現が「自分」です。すべての存在は、ひとつの大きな絆で結ばれているということです。

さて、鈴友会のみなさんは、互いに時間は隔たっていても、同じ伝統の空気の中で、しかも同じ学び舎で勉学に励んだ仲間という絆で深く結ばれています。それは、いつまでも、たしかな人生の証しとして切れることのない絆です。本学も、この絆の求心力を高めるべく日々努力しています。どうぞ、これからも変わらぬご支援をいただきますようお願いするとともに、これからの、みなさま方のお幸せと今後のご活躍をお祈りして、ご挨拶にかえさせていただきます。

特集 鈴鹿短期大学 創立 40 周年の歴史



平成 18 年 3 月 18 日、鈴鹿短期大学 40 周年記念事業として、「**鈴鹿短大からの発信** (佐治晴夫監修：鈴鹿短期大学 40 周年記念論文集編集委員会編、大学教育出版)」が発刊されました。今回は、その記念論文集に掲載された、座談会の様子を抜粋します。

鈴鹿短期大学創立 40 周年の、この間を出発期、発展期、激動期の 3 つに分け、教職員 (旧・現) の皆様方が各期における短大の状況や思い出を懐かしく語り合い、さらに、短大の将来を見つめあいました。

出発期を語る 橋本清子・岩崎ひろ子・仲見栄子・館峰子・山田芳子

山田 私たちは出発期を語るということで創立から 15 年、昭和 56 年ぐらまでの流れの中、苦労話や楽しかったことなどいろいろ思い出しながらお話を進めていきたいと思います。それでは、短大の設立準備室の時から勤めだしたという仲見さんですが、その短大の誕生のいきさつや当時の様子はいかがでしたか。

仲見 鈴鹿市の要請で鈴鹿高校が昭和 38 年 4 月に開校され、その隣の敷地に家政の各分野における専門的知識、技能を身につけた指導的家庭婦人育成をはかるとともに、専門的職能人として自立できる免許資格を付与した短大を設立しようという機運が高まり準備室ができたと聞いていますが、昭和 41 年 1 月に認可をもらいそれからの学生募集でたいへんでしたね。当時は校舎も 1 号館が建っているだけで施設が何もなくかわいそうでした。入学生数は 31 名と少なく、私も学生とあまり年齢がかわらなかつたので、学生とすぐ仲良くなつたり。

橋本 その開学と同時に就任されました橋本先生、今でもその当時の学生は忘れられないのではないですか。ええ、私は被服学関係の科目を担当ということで開学と同時にお世話になったので、学生と同じ新人。右往左往の毎日でしたが、学生の一人ひとりの顔と名前、そして出身地などすぐ覚えましてね。なつかしいですね。今頃はもうよいお母さん、おばあちゃんになっているのでしょうか。

「誠実に信頼される人に」を教育目標にかかげ、家政科家政専攻のみで出発して、翌年、食物栄養専攻に専攻分離して、校舎も増築、設備も整いだして、校旗や校歌を制定、学友会活動も活発化、新しい歴史を作るんだと学生も動き出しましたね。岩崎先生、どうですか。

岩崎 ええ、私はその食物栄養専攻ができたとき、調理学関係科目の担当として就任したのですが、学生は少なくとも元気がありましたね。でも、調理実習は学生はあまり得意でなく実習室はたいへんな大騒ぎ。たいへんといえば学生募集は苦しい時代が長く続いて、募集を担当している先生方はご苦労が絶えない毎日だったと思いますよ。今でこそ、にぎやかな街になりましたが、「鈴鹿市」を知らない人も多く、近鉄沿線でないという地の利の悪さをいう人もいましたね。でも、堀敬文学長先生の教育に対する姿勢とお人柄で、その当時の短大に勤めている教職員一同よくまとまって短大の知名度アップに向かって議論を交わし、努力をおしまず、教授会など学生がかわいさからでしょうが喧々譁々、長時間になることもありまして。

山田 私は、その食物栄養専攻の一期生で、橋本先生、岩崎先生にご指導を受け、そして卒業後そのまま短大にお世話になっているのですが、あの当時を思い出すと随分家族的で暖かい印象をうけました。先生方は教育熱心で、親身になって育てていただき人生の機微を感じました。先生方との会話が長く、そこからどんなことにも興味を持つようになり、視野が急に広がったような。

仲見 昭和 44 年に家政専攻に養護教諭養成課程を設置し、このコースは短大ではあまりないコースということで各地から学生が集まり、おかげさまで職員はその学生の受け入れに大忙し。3 月は毎夜、寮と下宿まわりでクタクタでした。そして、同年に働きながら学ぶという第三部ができ、短大も学生数がグーンと増えて、今度は教室が不足なんてことにもなりましたね。第三部の学生は学生であっても社会人ということで、すごい大人という感じがしました。事務的には、提携会社との連絡ミスなどがあって午前の学生が、午後になったり、送迎バスがおくれたり、いろいろありましたが。館さんは、私よりも 10 年後輩になり、短大も少し落ち着いた時代になっていたんで、このような話、どう思いますか。大学の事務室はこういう仕事をするのだと初めて知って、もうついていだけで精一杯の毎日でした。私が入った時は学生も多くて活気があり、10 年の歴史は簡単につくられたものではないのだなあと、いま先生方のお話を聞いて感じています。大学の行事がいろいろあって一年一年が早く過ぎていきました。

館 学生の研修旅行などに連れて行ってもらったり、教職員旅行も毎年楽しみでした。
橋本 一期生から北海道修学旅行へ行きましたね。そして春と秋の研修旅行も毎年計画して。いつごろから行かなくなったのかな。

山田 修学旅行といえば、9 泊 10 日の北海道旅行 (昭和 42~46、48、50 年実施) です。夜行列車、青函連絡船、函館山の夜景、摩周湖、阿寒湖、北海道大学 (クラーク博士像)、網走など雄大な大地に心は癒され、若いエネルギーは燃え、喜びの歓声が聞こえました。寝食を共にしたことは、先生や学友の温かい心に触れることができ、学生生活で一番の思い出ができた旅行でした。

岩崎 勉強の合間に行事も多く取り入れて、スポーツ大会、大学祭、そして予餞会などいろいろありましたね。大学祭では全国各地から集まっている第三部の学生はそのお国自慢コーナーを設けて名物を販売したり、お国の民謡を踊ったりして大盛況、すごいパワーぶりを発揮していました。

仲見 第三部ができた時はすごかったですね。東洋紡、東亜紡、鐘紡、敷島カンパス、大東紡、倉敷紡、中央毛織など周辺の繊維会社と提携を結んで、従来あった短大 2 部と違った紡績工場の二交代勤務にあわせた授業時間で三年で卒業するという新しい型の短大ですが、この一期生は 135 名と多く、その学生を送迎するバスが毎日、何台も玄関前に並んで実

壮観でした。でも、この第三部も、繊維産業の衰退で学生数がだんだん減って、ついには商経学科の誕生となるわけですが。

そしてこの商経学科に男子学生の入学と、当時の私たちの予想もしない展開になるのですが、この話はこの出発期のことではないので。

橋本 学生寮や下宿先も市内数箇所にあつて管理がたいへんでしたが、昭和 54 年に鈴峰寮ができ近いところにまとまることとなつて、でも一番近いところなのに、その寮生の遅刻が一番多かった。

山田 今でもそうですよ。遠くから通学している学生の方が早くきます。鈴鹿短大学生気質もこの 40 年で随分変わってきて、どう対応していけばいいのかと悩むことが多いです。

橋本 変わってきて当然なのですが、私たちが教えていた時代は短大といえば家政学という時代で、良妻賢母教育の中に専門的職能人養成を取り入れた、今から思うと範囲が限られた教育内容で、多様化した現代、教える側も教えられる方もたいへんじゃないですか。

岩崎 無から有。本当になにもないところから出発してここまでよくやってきたものだと思います。40 年、長かったのか、アツという間であつたのか。

初代の堀敬文学長先生はいつも入学式などで学生に「陰徳ある者必ずその栄を享く」と校名の出典についてお話してみえましたが、今もそれが生き続けているのではないですか。

仲見 入学式の会場にはその軸が掛けられましたねえ。初代学長先生（写真）は、学校は、教員、職員、学生の運命共同体だといつも言ってみえましたが、本当にそうで、どのひとつが欠けても成り立たない。その学長先生の気持ちがあたたかい雰囲気の大短大としてよくまとまって、私はとても働きやすい職場として長く仕事できたことほんとに喜んでます。

山田 学校の空気も学生の質もだんだん変わってきていますが、初代学長先生からひきついでものは目には見えなくてもいろいろのところでたくさん残っていると思います。

館 私は、他の職場は知りませんが、仲見さんのいわれる通り働きやすい職場だと思います。事務室もそして事務内容もはじめの頃とすっかり変わりました。当初は、もちろんパソコンなどなくて、和文タイプの音がしていたり、なんでも手書き、手作業でしたが、いまはOA機器なくしては仕事がすまない。

岩崎 久しぶりに短大に來させていただきましたが、とてもなつかしいです。出発期はどこでもなんでもたいへんで、この座談会は苦勞話ばかりになりましたね。

橋本 いまさら愚痴を言ってもしかたありませんので、苦勞も多かったけれど、楽しいこともいっぱいあつた出発期ということで終わらしましょうか。

山田 最後に橋本先生に締めくくっていただきましたので、まだまだ出発期、話はつきないと思いますが、このへんで終わりたいと思います。



初代学長 堀 敬文

発展期を語る 神尾 光員・出雲 敏彦・富田 寿代・清水 利佳・鎌田 美千代・岡野 節子・福永 峰子

福永 昭和 56 年～昭和 63 年間の歴史の歩みを発展期と位置づけて、商経学科設置認可についてと家政コースを服飾科学コースに変更したことなど中心にお話ししていただきます。まずは、永年に渡り事務長を勤められ、ご苦勞が多かつたと思いますので、神尾さんからご説明いただけますか。

神尾 この時代は、従来の家政学科から異質要素を加えた商経学科の設置とその後の男女共学、さらに入学定員の増加に伴う家政コースから服飾科学コースへの変身等、正に発展期そのものの時代だと言っても過言ではないと思います。ご承知の通り文部省への認可申請手続きは、今日のように規制緩和もなく設置基準は大変厳しいものでした。その基準の 1 つめは設置の趣旨、2 つめは教員組織、3 つめは設備や校地等による資産状況です。文部省へ行った最初の年は、相談すら応じて貰えなかったように記憶しております。日々暗中模索のなか、申請手続きに邁進致しました。提出する資料も膨大で、準備期間は 3 年の月日を要しました。文部省に申請書を受理してもらうためには必要性を強調しなければいけないということで、設置の趣旨を三つの柱で構成しました。1 つめに商経は享栄学園の原点であること、2 つめに当時の時代背景として国際化・情報化する社会へ適応出来る人材を育成すること、そして 3 つめに小規模改組での経営規模の確立でした。この 3 つで文部省には何とか申請書類を受け付けてもらえて、その後はヒヤリング、実地調査へと進み、忘れもしない昭和 59 年 2 月 2 日に、やっと商経学科が認可書を受理するに至りました。

ここで息抜きとして、一つの逸話をお話したいと思います。商経学科設置準備委員会の先生方は毎日夜遅くまで仕事をしてみえたわけですが、認可が確実視されていたある深夜、突然文部省から校地面積が認定基準に満たないので認可を認めない旨の電話がありました。高等学校との校地の共用部分について文部省の理解が得られなかったんですね。関係者は慌てて打開策を考えねばと翌日より東奔西走し、三重県私学振興課に高等学校学生一人当りの基準面積の証明書をお願いして、文部省の承諾を何とか取り付ける事が出来ました。こんな事が有りまして、年内に認可は下りず、正式には翌年となりました。

さて、発展期においては、新学科の増設、新コースへの変更等により規模も大きくなり、収容定員は当然ながら増加されました。昭和 56 年から昭和 58 年における収容定員は 200 名に対し学生総数は 350 名台を推移し、更に昭和後期の 63 年度に至っては総学生数が 650 名までに増加したことは周知のとおりです。以上申した通り学生数も順調に延び、益々の充実発展した時代ではなかったかと思えます。

福永 実際に商経学科の学生指導にあたられました出雲先生はいかがでしたか。

出雲 当時の開講科目には、国際金融論、会計学、経営学、民法、憲法そしてコンピューター関係などの科目がありました。現

在で言うMBA（経営学修士）のような形を目指してでき上がった学科であったと思います。私を含め、30歳を少し越えたくらいのスタッフが5人おり、10年間ほど商経学科の発展に力を注いできました。商経学科というのは教育内容もさることながら、人間関係が非常にスムーズに行われていたのではないかと思いますね。

福永 私達家政科の方から見ると、商経学科の先生はまとまりがあり、学生さん達もすごく活気があって元気だといつも思っていました。人間関係がスムーズであったといわれましたが、何かコツがありましたか。

出雲 それはですね、「商経センター」という先生方が集まる部屋があったからだと思います。そこには2人の助手さんがいつも詰めてくださっていたので、先生方はもちろん、学生たちも集まりやすい環境でした。いつもそこでお茶を飲んだり、昼食をとりながら情報交換する、これがかなり大きかったですね。これは単に先生方の交流だけではなく、学生のことについても話をしますので、ある時学生が校内で自動車事故を起こしたのですが、その時もすぐに我々の所に情報が入ってきました。この商経センターは、竹士先生が学科長の時に作られました。各先生方の専門分野が違うので、それぞれの研究室に閉じこもらないように配慮された部屋で、先生方は1日1回は顔を出すようにといわれていました。この部屋があったからコミュニケーションがとれて人間関係がスムーズだったと思います。

神尾 出雲先生に伺いたいのですが、商経学科と家政学科の2学科になって、それぞれに学科会議があり、総合的には教授会で事が進んでいましたが、違う学科の先生方とのコミュニケーションを取られた方法とか、学生間の融合はどんな風だったんでしょうか。

出雲 学科と学科の繋がりということではやはり、学科長を通じてというのが多かったですね。私は、家政学科の先生方は皆先輩でしたから教えてもらう立場でしたし、我々より年上の先生方はお付き合い上手でしたので、あまり軋轢はなかったですね。

福永 本当に商経学科の先生方には良くしていただいて、楽しい思い出ばかりです。商経学科が開設して3年後に男女共学になりましたが、清水先生は両学科の体育をご指導なさって、学生さんとのふれあいやコミュニケーションの取り方等はいかがでしたか。

清水 全学科担当していたので、そういう意味では横の繋がりもありましたね。学生同士の中では見えない壁もなかったですし、仲良く楽しくできていたんじゃないかと思います。私が着任したときには、学生数がどんどん多くなっていった時だったので、クラブ活動がそれまで女子の硬式テニスとお茶やお花しかなかったのが、バスケット部やバレー部ができてりと活発になってきました。男子が入ったことで、やっぱり活気がありましたね。

出雲 男女共学になって学生数は増えましたよね。男女共学に反対はなかったですか。

神尾 それはありましたよ。男女共学で学べる設備が必要でしたし、家政学科の先生方は男子学生を教えた経験が無かったので心配されていました。

清水 私は始めから男子学生がいましたから違和感はなかったですね。あの頃は研究室にいつも学生が入り浸っていましたし、よく学生と遊んでいましたね。

福永 みんな懐かしいですね。保健室に配置された鎌田先生は学生さんたちとふれあう機会が多かったと思いますが、いかがですか。

鎌田 私は助手としてお世話になりましたが、ずっと女子ばかりだったので、商経学科が出来て男子が入ってくことに心配はありました。当時ご指導いただいていた小林先生が「保健室のベッドはどうしましょう」と言っていたのが印象に残っています。それで確か、ベッドのところを区切って頂いた記憶があります。

福永 他に先生方との思い出やエピソードなどはありますか。

鎌田 竹士先生は毎週血圧を測っていかれました。それまでは近づき難かったんですが、親しみやすい方だったんだとわかりました。学生も元気でしたが、先生方も学生のパワーをもらってとてもお元気でしたね。

福永 商経学科が男女共学になった年に服飾科学コースの担当として着任された富田先生はどのように感じておられましたか。

富田 私は中庭をはさんで美しい校舎（当時の3号館）が建っているなあと感じていました。服飾科学コースも新しい校舎で設備もかなり最新の良いものを入れてもらっていましたが、他のコースは昔ながらの、伝統ある建物という感じでしたね。

福永 当時、服飾科学コースの助手を勤めておられた岡野先生はいかがですか。

岡野 服飾科学コースは衣料管理士の資格を取得することができましたね。この資格は、企業と消費者の間に立って衣生活の充実を図るのが仕事です。衣料の材料・加工・色の原理などの知識も持っていて環境にも気を配らなければならない、アパレル関連企業に有利な資格です。このような資格が取得できたことは素晴らしいことですよ。

福永 服飾科学コースの学生さんは、卒業式のパーティで素敵なドレスをよく披露してくれましたよね。

出雲 服飾科学コースは、素材からデザインまで全部やるということでしたが、あれは全部授業の中で出来たのですか。

富田 そうですね。それを教えていくということになっていましたが、なかなか上手はいきませんでしたね。たった二年間で、学生には得意不得意もあるし、素材の話は科学で難しいですね。全部勉強させることは学生にとって負担だったと思います。入学してから「こんな厳しいの」と感じるころがあったと思います。

神尾 鈴鹿は「服飾科学」という環境が整っていないから、上手いかわないと言われていましたが、実際はどうだったんですか。

富田 愛知は繊維の一宮が控えていますし、岐阜はアパレルですからね。ただ、繊維は斜陽と既に言われていた時代でしたから、鈴鹿の地で服飾科学を發展させていくのは難しいとも感じていました。

神尾 今思うと残念なのは、服飾科学コースを作る時に、コースですから文部省の認可は要らないのですが、報告はしないといけないわけですね。そこでコース主任の根本先生が報告書を文部省へ持っていかれたら、特色ある教育ということで特別補助金がついたんですよ。かつて、ずっとやってきて特別補助金が付いたのは服飾科学コースだけでしたね。

富田 科学と文化を融合させるという、今流行のものに近かったですし、やっていたことは画期的だったと思います。場所が悪かったのか、時代が悪かったのかわかりませんが、画期的すぎて学生がついてこれなかった印象があります。



記念式典における堀 敬文学長の挨拶

福永	就職面ではどうだったのでしょうか。服飾科学コースの卒業生の方はどういうところへ就職されたんですか。
神尾	ニーズはありましたよね。学生さんは科学よりも、生活に直結するところもあるしファッションの方に目が向いていたのではないですか。
富田	確かにそういう学生もいましたね。しかし、倉敷紡績やフタバ産業、染色工場などにもたくさん就職しています。先生の顔もあったと思いますが、かなり色々なところへ就職して活躍されている卒業生の方もいると思いますよ。
福永	商経学科増設で2学科となってから、先生方や学生数も増えて、キャンパスはいつも明るく活気に満ち、充実発展が大いに期待できる時代でしたね。まだまだお話を伺いたいのですが、発展期の座談会をこれで終了させていただきます。

激動期を語る 林 英夫・北川 博一・大谷 仁・古田 悠・木野本 はるみ・小林 壽子・稲田 輝夫・梅原 頼子

林	平成元年から平成15年までの短大ですが、平成6年までは右肩登りの時代でした。以降は下り坂で、鈴鹿国際大学に定員を割愛し、学生数が減ったというだけではなく、先生方も大挙して国際大学に異動されました。そういう後の空虚な思いを味わった先生方もたくさんおられると思います。まさに、激動の時代であります。この間を回顧していただき、苦心をしながら何とか短大の充実を図ろうと努力された事など、お1人ずつ順番にお話しいただければと思います。それでは北川先生からお願いします。
北川	私の印象に残っているのは、入試委員になって専ら英語関係の入試問題を作成した事です。その当時はかなり試験が難しかったことや高等教育を希望する学生数の増加で合格できない生徒もかなりいました。商経学科の大教室はいつも学生が沢山いました。大学が非常に活気があったということですね。もう一つは就職部長をしていた時のことですが、この時はまだ就職難ではありませんでした。企業からの求人も多くて、特に短大の女子学生に対しては非常に旺盛でした。なかでも生命保険会社からの求人が多かったのを思い出します。しかし、学生のご両親からは「生命保険会社を薦めないでくれ」というクレームもありました。
大谷	私が良かったなどという感じを持っているのは、短大は明るく家庭的で、学生さんもみんな意欲的でしたから、個性を伸ばしていけるように接することができたことです。なかでも女子バレー部の顧問をしておりまして、平成6年度には三重県学生バレーボール選手権で、三重大学や皇學館大学を破って鈴鹿短期大学が優勝したこと、あの感激は今でも忘れられません。それから、養護教諭コースが養護教諭・福祉コースに改名した平成3年以降、研修旅行に行っていました。平成7年は大阪方面に行くことが決まっていたのですが、阪神・淡路大震災がありまして、急遽下呂高山の方に変更しました。その時に学生の中から「先生、義援金を送ろうやないか」という声が上がって、カンパをしまして義援金を送りました。学生たちの優しい気持ち、そういったものが心打たれるものであったと思います。
木野本	私が短大にお世話になった当時、学生さんが全国から集まっていることに非常に驚きました。どうして本学を選んだか聞いてみると、自分の学校の養護教諭の先生が鈴鹿短大の卒業生で、その先生がとても良く指導してくれたので「そんな先生が通っていた短大へ行こう」ということで、この短大に来ているという学生さんがたくさんいました。他には、養護教諭の資格を取るためには、臨床実習や養護実習がありますよね。このような校外実習では、学校では見ることが出来ない技術や病める人を見る目などが養われて、実習から帰ってきた学生さんを見て、「ずいぶん成長して帰ってきたな」という印象を受けたことを憶えています。また、先ほど大谷先生のお話しにも出ましたが、バレー部が試合で優勝したり部活動が盛んなんだなあという印象がありましたね。それから、学生数は平成5年の907名をピークに少なくなっていった、色々なところへ学生募集にも出掛けましたね。その頃は、暇さえあればバイトに励む学生さんが多かったように思います。
古田	私は他の先生方とは少し違っておりまして、大学を創って欲しいとの依頼を受けてこの大学に来ました。赴任して最初は、鈴鹿市、津市、四日市市と、大学の設置の協力依頼に堀副学長と駆けずり回った記憶が強烈な印象として一生忘れることができません。しかし、いずれの場所も当初大学設置は難しく、平成2年の終りには堀理事長から「もう三重県は諦めろ」「愛知県か岐阜県に移れ」という指示までありました。もう一つ私が忘れられないことは、堀副学長とアメリカに行ったことです。アメリカへ大学を見に行くというのが一つと、創始者の堀英二先生の足跡を探しに行きたいということでした。ただ、100年ぐらい前の話ですし、砂漠の中でダイヤモンドを拾うようなものだという気持ちではありましたが、奇跡的に英二先生のご卒業になった大学が名前を変えて現存するということがわかり、名簿で名前を見つける事ができました。これは奇跡的なことであつたと、私の忘れられないエピソードです。鈴鹿国際大学の設置が決まった後は、養護教諭・福祉コースの教授として情報処理の授業を担当する事になりました。当時ちょうどワープロからパソコンに切り替わった頃で、情報処理センターが出来たばかりでした。商経学科がゼミ形式をとっていたので、生活学専攻でもゼミの形式を取った記憶も思い浮かびます。私はゼミで「デスクトップパブリシング」という机の上で本を作るということをやらせてみました。なかには片面印刷で1冊50ページを6冊作った学生さんもいて、これは今でも私の宝物として残っています。
小林	私が印象深いのは、平成3年生活学科生活学専攻養護教諭・福祉コースと学科・専攻名・コース名を変更したことです。文部省への届出申請は大変でした。そして平成10年から鈴鹿国際大学短期大学部と大学名が変わりました。この年、文部省は愛知県の中学2年生の大河内君の自殺を機に、教員の資質を高めるということを急遽打ち出されて教職課程の見直しとなり、本学も新たな再課程認定を受けることになりました。
林	再課程認定ではご苦労様でした。
小林	ご指導いただいた矢田先生のお言葉ですが、「天が助けてくださった」ということでスムーズに進み、養護教諭2種免許で再課程認定を受けて今日に至っております。

他にも大学名が変更になった年には、大学祭を国際大学と一緒にやって行くことになりました。ただ、その時は短大だけで大学祭ができないのかと随分学生委員会でも検討しましたが、学生数が減ってきていましたしやむを得ないということで合同開催となり、そのあと今日に至っています。平成12年には国際大学から木野本先生を通じてエイズ予防キャンペーンを開催してほしいというお話がありました。エイズ感染者のペンネーム北山翔子さんを記念講演の講師として呼び立て、鈴鹿国際大学の国際文化ホールで行い、大学祭のイベントを成功に持っていったことが印象に残っております。

稲田 私は就職課担当でした。平成元年はバブル期の後半で、学生の45%くらいは県外出身者で、求人も全国から集まってくるという状況でした。

その後、バブルが崩壊して学生は地元志向に変わりましたね。それから10年ほど経って規制緩和に変わってきた当時に、企業が合併や統合・廃止とかいうようなことが全国で起きました。10大都市銀行が昔ありましたけれども、今は統廃合されて4大銀行ですね。今まで10箇所あった求人が途端に4箇所からしか来ないという状態が、銀行のみに限らず他の企業でもたくさんありまして、求人が減ってくるというような状況でした。

世間ではこのような状況でしたが、本学は専門職希望者が多いものですから、それほど大きく影響は受けませんでしたね。就職関係は世の中の経済の動きに左右されます。この動向は大きいものですから、そういう情報を集めるのも大変でしたね。あっちへ行ったりこっちへ行ったりしましてね、絶えず情報収集をしまして、学生にもそれをお話していました。私はいつも就職率100%を目指して頑張っていましたね。

梅原 栄養士コースでは、最近ですが平成14年に栄養士法の一部が改正されて、教育内容と教員資格の見直しがありました。例えば、病理学担当者は医師免許を持った先生でなければならぬ、助手3名のうち2名以上は管理栄養士でなければならぬなど規定が出され、再申請しました。

そして、管理栄養士国家試験対策として、平成8年度から準備講座を同窓会が立ち上げて、平成15年から本学の公開講座として卒業生を支援しています。毎年わずかですが合格者も出ていて、嬉しい報告をしに短大へ顔を出してくれる卒業生もいます。

木野本 私はその準備講座で健康管理概論の講師をしましたね。あまり栄養士コースの学生さんとは接触がありませんでしたが、卒業した方々がいっぱい集まってみえて、母校を懐かしんでみえるのを知り、ここで色々ないい教育を受けた人が全国に散らばってるんだなあと思っていました。また、ホームヘルパーの講習会でも、栄養士コースの学生さんが資格を取りにきてくれました。養護教諭・福祉コース以外の学生さんと接触があったのはその2点ですね。

林 一通りご発言いただきましたが、他に思い出されるようなことがあれば、ご発言いただければ、ありがたいと思います。いかがですか。

大谷 食文化コースというのがありましたね。私はスポーツ実習を担当しまして、スポーツ施設を使った健康づくりを目指してスイミング、エアロビクス、ゴルフをしました。学生諸君と一緒にエアロビクスをしたり、ゴルフの打ちっ放しを楽しみました。特にスポーツ好きの学生はどんどん上達していったという記憶がございます。

梅原 その食文化コースですが、栄養士コースの志願者数が毎年定員をはるかに上回ってきていて、その対策として食文化を学ぶ学生を募集しよう、というのが始まりでしたね。

北川 商経学科は特色としてゼミを持っていましたね。卒業論文を毎年書いて、その成果を見せる卒業研究発表会がありました。伊勢の厚生年金会館という大きなところを借りて、各ゼミから代表を出して発表をさせる。その晩はそこで泊まってくるということもありました。

小林 養護教諭コースも発表会をしましたね。当時はまだパソコンもないので模造紙にいっぱい貼っていましたね。平成12年だったと思いますが、同窓会の援助もあって養護教諭の採用試験のために受験対策講座をやりました。その時に養護教諭教員採用試験問題集を1冊にまとめて出しました。

古田 手前味噌になりますが、本学の養護教諭・福祉コースの卒業生が三重県の養護教諭の半数とかなりの数を占めておりまして、三重県からも養護教諭コースに期待されていましたよね。

林 右肩上がりの時代のお話が多いように思いますが、右肩下がりの難しい時代に関して思い出されることがございましたら、是非ご発言いただけるとありがたいと思います。

北川 平成5年をピークに学生数は減少していきました。定員を満たすために留学生の受け入れやAO入試が導入されて、面接や作文で判定をすることになりましたから、入試制度が無力化してしまいました。この結果、学生の質がかなり低下しましたね。

また、学生募集のためにそれぞれの大学がオープンキャンパスをやることも学生が減ったことの結果でしょうね。

林 ありがとうございます。この部会は「激動期」というテーマで、商経学科は四大に移行して将来が期待されることとなりました。残った生活学科は定員が減り、苦しい中でも頑張ってきたという事ですね。

全て語りつくすにはもっと時間が必要ですが、このあたりで終了したいと思います。



激動期をなつかしく語る先生方

本学の将来像を語る 佐治晴夫学長・堀崎好副学長・櫻井悠郎学科長・葛西泰次郎事務局長

葛西 昨今の高等教育は、少子化に伴う18歳人口の減少とその影響で、全国短大の半数強が定員割れするという未曾有の厳しい時代となっています。本学は2年前に佐治学長をお迎えし、昨年からは短大改革を実施、学内を明るくすることと、学生の満足度に視点を置いた大学名称の変更を始めとする様々な見直し改革に取り組んできました。お蔭様でこの数年間本学は、定員割れとは無縁に推移しており、私学共済事業団からも注目されているところです。

本日のこの会では将来展望を語っていただきますが、1つは40周年を迎えたこの現在はどういう時代なのか、2つ目にそれを踏まえて新しい本学の将来像、3つ目は新しく目指す本学の学生像、この3点についてお願いしたいと存じます。それではまず、副学長から本学40年の歴史を織り混ぜてお話しください。

堀 第一次ベビーブームに合わせて昭和38年に鈴鹿高校を創立し、その延長線上に女子の高等教育が必要ということで昭和41年にこの鈴鹿短大を作りました。3年後には、東洋紡、東亜紡、鐘紡などで働きながら学ぶ学生を受け入れるために「第三部」も作りました。

次にバブル期がやってきましたが、誰もが高等教育を受ける時代でしたね。この頃に商経学科が出来ました。学生数が一番多い時には900名を超えました。

その後鈴鹿国際大学の創立により、短大の定員を移行しましたから短大は小規模化しましたね。

現在、学生数は減少したものの、本学は資格を取るために入ってくる学生ばかりですからモチベーションは高く、目的意識の高い学生が多いと思います。これからどうしていくか、というところで佐治学長をお迎えしました。

葛西 学科長はいかがですか。

櫻井 私が就任してから現在まで、学生の学ぶ姿勢は変わっていないと思います。この短大に来る学生は、副学長が言われたように資格を取るという目的意識がありますから、充実した学生生活を送っているように思います。しかし、学生がどんな学生なのか、どんな雰囲気を持っているのか、と考えるとイメージが浮かんできません。40年の歴史を持った学校がなぜだろうと思います。

葛西 短大生は四年制大学と比べると、カリキュラムもボリュームがあり、資格取得という目的もあって、アルバイトなども考えると学生生活は大変過密で、大学のカラーとか、学生生活を楽しむ余裕がないというのが現状ですね。

学長は本学に来られた時、どのような印象をもたれましたか。

佐治 まず、私がここに来て感じたのは、もう少し明るさがほしいということでした。本学は、近くに美しい川や山があつて素晴らしい自然に囲まれた環境の中にありますし、女子学生も多いのですが、暗い印象を受けました。校舎自体も暗い印象を受けましたので、改革第一歩として今年の3月に本館のリニューアル（写真は学生教務課窓口）を行い、今までよりもずっと明るくなりました。環境によっても人の気持ちは変わるものですからね。

学生については、二年間で資格を取るという目的意識はありますが、「学ぶ」「理解する」という意識はまだ十分ではないように思います。それをこれからどうやって付けていくか、ということです。地域の方から「鈴鹿短大の学生」「鈴鹿短大の卒業生」ということで評価される学校になるためには、学生に付加価値を付けることが必要ですね。出来る学生を育てることも大切ですが、それよりも優先するのは気立てのいい学生を育てることだと考えています。

葛西 学生に付加価値をつけること、そのために具体的にはどうしたらいいのでしょうか。

佐治 学生を見ていると、話し方や社会生活でのマナー、礼儀作法、最低限のエチケットなどが十分だとは言いきれないことに気がつきました。当たり前の事かもしれませんが、この基本的なことを充実することで本学の特徴として出していけないかと思います。

正しい判断の出来る「理性」と、相手の立場に立って相手を理解出来る「情緒」的なもの、またその調和が必要だと思います。復古調であるように思われるかもしれませんが、逆にこの「理性」と「情緒」を2本柱として、この短大の特徴として出していきたいですね。今年度から総合演習の内容を一新して、幅広い教養を養うための講座にしましたね。

葛西 学生が「理性」と「情緒」を総合演習を通じ、教養として身に付けていくことは本当に大切ですね。

堀 本学の卒業生が学園内の高校・大学の事務局で働いていますが、今まで苦情を受けた事は一切ありません。言い換えると地味、真面目で誠実ということになるかもしれませんね。このように今までの卒業生は「誠実で信頼される人」という建学の精神は守られてきていると思いますが、これからはそれだけではなく学長の言われる教養もとても重要だと思います。

佐治 学生は2年間で成長しますし、私が短大に来たときよりは、今年入学してきた学生のレベルは上がってきている印象を持っています。それは社会人学生が増えてきたことに関係しているのではないのでしょうか。社会人の勉強に対する姿勢、態度は意欲的で他の学生のお手本になっています。本学が社会人に対する奨学金制度を設けたことによって、このような効果が表れてきたのですね。

本学の学生の評価ですが、公開講座に参加している一般市民から良い評価を受けています。来学される方からは学生が挨拶をしてくれると評判です。

櫻井 学生は資格を取るという目的意識を持って勉強していますので、それには満足していますが、学問的な興味を持って授業に望んでいる学生は少ないように思いますし、もっと勉強したいから4年制大学へ進学するという学生が少ないのは少し寂しい気がします。

葛西 その通りですが、学生の中には経済的に厳しい家庭事情の中で勉強し、資格を取得、すぐに社会に出ようという学生が数多くいます。それを可能ならしめるところに本学の存在意義があるのではないかと思いますね。

佐治 学生が授業を受ける態度については他の大学に比べてずっとよいと思います。なかにはとても熱心な学生もいますので、その学生達を中心となって他の学生を引っ張って貰えたらいいと思いますし、社会人学生の背中を見て自然に勉強する態度も養えます。ですから学生の将来についてはそれほど心配していませんし、行き先は明るいと思っています。また、フリーターやニート問題がありますが、本学の学生は就職率も高く良いほうだと思います。

櫻井 そうですね、学長の言われる通り本学の学生に大きな欠点は見当たりません。しかし、特徴が出てこない、何か特徴が欲しいと思いますね。

堀 本当にそう思います。本学は今まで養護教諭の採用試験や管理栄養士国家試験の合格者を毎年出してきており、一定の



リニューアル後の学生・教務課

	ラインを維持してきました。これからをどうするかです。
葛西	本学には、今まさに時代が求める生活学（養護教諭・福祉）専攻、こども学専攻、食物栄養専攻の3専攻がある訳ですが、何か本学の独自性が特徴として出せないでしょうか。
佐治	先日、特別養護老人ホームへ学生が実習授業をかねて見学に行きましたね。その時の感想文を読むと、現場を見ることがとても大切だと感じました。現場から学ぶ事はとても多く、このような実習を充実させる事で特徴が出せるかもしれません。
櫻井	最近では、病院実習など医療の現場を見て驚く学生がたくさんいます。学生たちが命の大切さを意識できるような講義があってもいいのではないかといつも思っていました。
佐治	そういった意味でもライセンスを取る講義だけでなく現場の実習は非常に重要だと思います。短大は基本的に地域密着型でないといけないと思っています。学生が現場実習に行くと地域に貢献できることは非常に重要です。そういった意味でも先日の特別養護老人ホームへの実習には大きな意義があり、それを続けていかなければなりませんね。
櫻井	本学は小さい短大ですので、学生が地域に貢献できる場所を作っていくことは必要だと思います。学生がオープンキャンパスなどで高校生に指導している姿を見ると生き生きしています。このような場所があれば学生自身が成長していくと思いますし、大学の評価、先生の評価となって返ってくるのではないのでしょうか。
葛西	確かに学生が自主的に参加する大学祭等のイベントでは実に生き生きしていますね。短大の学生生活は多忙ではありますが、ボランティア活動のチャンスなども作ってあげることが大切だと思います。本学は小さい規模をメリットとして生かしてどんどん機動的に活動していけるといいですね。
	本学の将来像ですが、大きく理想像を言えば、私学ですから国公立と同じパターンを踏襲していくのではなく、私学の特徴である独自性やユニークさを出していくことが重要だと考えます。よく言われるように、地域のナンバー1ではなくオンリー1をこそ目指すべきだと思いますがいかがでしょうか。
佐治	今は地域の方に公開講座に参加するという形で本学に來校していただいておりますが、これからは私達が地域へ出て行く必要もあると思います。地域サービスのために新しいことを常に本学から発信して、地域との信頼関係を深めていくことが大切でしょう。
	本学は人生をデザインできる3つのコースがありますから、人の一生の側面をカバーできる講座を先生方の知恵を出し合って考えていくことが地域社会に貢献できることだと考えます。市民のQOL（生活の質）を高めるための基本的なお手伝いをしていきたいですね。
葛西	地域との関係なくして本学はあり得ませんからね。鈴鹿市との間で学官連携協議会などの場もありますが。
櫻井	今の時代にあった教養講座をもっと地域へ発信していく、また社会人としての基礎教育などの講座の充実をしていかなければいけないですね。例えば本学の中に食育センターや教育センターを創ることも考えてみてはどうでしょうか。本学のような教育施設から地域への貢献も重要ですよ。
堀	そうですね。例えば朝食が食べられない小学生が多いと聞きます。小学校が抱えている問題にも違った形で取り組めることもありそうですね。
佐治	母親教育や親子教育など今の地域に貢献できる講座がいくらでも考えられます。本学にレストランを作ることも可能じゃないでしょうか。栄養計算のされているメニューがあってもいいですね。本学が中心となって鈴鹿から三重県へ、そして世界へと文化をはじめいろいろの発信が出来ればいいと思います。
堀	例えば某大学では、〇〇講座を受講した後は大学内の喫茶店でお茶を飲み、大学内のレストランで食事をして帰ってくる、というような本当に町と一体になっている例があります。
葛西	小規模であることをメリットに柔軟な発想で、できる事から新しい事に取り組んでいきたいですね。また、学生の将来像についてはどうでしょうか。本学の建学の精神である「誠実で信頼される人」と具体的目標として掲げられた①あてになる人物になろう②働くことの喜びを知ろう③全力をふるって事にあたる体験をもとう④感謝の気持ちと畏敬の念をもとう⑤正しく日本を愛し、国際的視野を広げる人になろう、の五項目は具体的でわかりやすく素晴らしい目標だと思いますが、学生を育てる上で、この建学の精神はどのように教育と結びつけることが出来るのでしょうか。
櫻井	学生達には建学の精神を具体的に語るなければ、本学が意味する誠実を理解してくれないと思います。そこに校風としての鈴鹿短大の付加価値をつけてあげたいですね。
佐治	先生方が建学の精神を踏まえて授業を通して学生に伝えていく、色々な見方や価値観があつていいと思います。研究する事と教える事は違いますが、先生方が真剣な態度で取り組めば学生と信頼関係が築けます。言葉だけで伝わるものでもないと思います。またメンタリティー教育も必要ですね。しかし、一年に一回くらいは建学の精神について講義しても良いと思いますよ。
堀	創立者は毎朝、校門で学生を迎えていました。登校指導でなくて学生一人ひとりに声を掛けるために出迎える意味があり、当時の学生からは信頼されていました。それは今も受け継がれているような気がします。評価を期待して何かをするのでは無いという事です。
佐治	建学の精神は先生方の普段の真剣な姿勢から、学生たちは学んでくれるのだと思います。専攻別で学ぶ内容は違いますが、人間の本质としては同じものを求めて教育をしなければならぬと思います。教育の根底にはお互いの信頼関係が必要です。そんな雰囲気から気立ての良い学生は自然に育つてくれると思います。建学の精神「誠実で信頼される人」で、社会に役に立つ「気立てのいい」学生たちが本学の特徴として、また大学のカラーになってくれればと思います。
葛西	本学の将来を語るということで、座談会を持ちましたが、お話が正に開学の原点である「建学の精神」のお話しに立ち返ったところで、本学の将来が更に50年、100年と発展してゆくことを祈念しましてお開きにしたいと存じます。ありがとうございました。

「鈴鹿短大からの発信（佐治晴夫監修：鈴鹿短期大学40周年記念論文編集委員会編、大学教育出版）」は、一般書店でも購入可能です。

平成 18 年度 鈴友会 総会報告

平成 18 年 5 月 13 日(土)、母校にて開催されました。あいにくの雨天でしたが、学長の特別講演を拝聴したいと多くの方々にご参加いただき、無事に終える事ができました。

また、総会終了後の茶話会では、昭和 50 年代の同窓生を中心に集い、思い出話が尽きませんでした。



昭和 50 年代 同窓会開催

総会に引き続き、昭和 50 年代の卒業生の同窓会が行われました。この同窓会は、総会というせっかくの機会をぜひ生かしてもらいたいと、鈴友会役員会が提案したものです。今回は、この同窓会に参加・協力して下さった幹事さんから感想をいただきました。平成 20 年度総会後は、昭和 60 年から 63 年までの方の同窓会を企画しております。そちらにも、皆様ぜひご参加下さい。

～ 総会に出席して ～

S57 養護 市川昌子

鈴鹿短大を卒業して早いもので 23 年が過ぎました。昭和 57 年度養護教諭コース C 組の皆様、お元気でいらっしゃいますか？皆さんのお手元にも平成 18 年度鈴鹿短大鈴友会総会の案内が届いたと思います。5 月 13 日土曜日、雨が降るあいにくのお天気でしたが、鈴鹿市内から 2 名、津市から 1 名、松阪市から 1 名、岡山県から 1 名、計 5 名で卒業後はじめて短大総会へ出席しました。23 年ぶりに訪れた短大は、学校の中心に明るいスペースでソファが設置され短大生の憩いの場である学生ホールが出来ていました。玄関に入って左側には新しく大講義室が完成し、そこで総会の前に学長先生の特別記念講演「宇宙の研究が教えてくれること、豊かな人生を送るために」を聞かせていただきました。宇宙の不思議なはじめて聞く話もあり、一人の人間として、一人の

子をもつ親として考えさせられる話もあり、とてもすばらしい講演でした。ありがとうございました。5 人で講演、総会と参加して学生時代にタイムスリップしたような気持ちになりました。総会後は尾矢先生と 6 人で夕食を楽しみました。その後鈴鹿サーキット近くの旅館に宿をとり、学生の頃の話、今の仕事の話、子供の話など時間のたつのも忘れ、話題は尽きることなく大いに盛り上がりました。数年ぶりの再開で懐かしくとても楽しい時間を過ごせました。次回もまた総会、同窓会の機会がありましたら参加して、今回会えなかった方々にも会って懐かしい話が出ることを楽しみにしています。本当に同級生っていいなあと思えた嬉しい 2 日間でした。総会をお世話になりました先生方、鈴友会役員の皆様、どうもありがとうございました。

平成 20 年度 新役員ご紹介

名誉会長	佐治 晴夫	(学長)
会 長	増田 文子	(昭和 44・栄養士コース卒)
副会長	鎌田 美千代	(昭和 56・養護教諭コース卒)
書記	永岡 宏行	(平成 16・栄養士コース卒)
	寺田 圭吾	(平成 18・養護教諭・福祉コース卒)
会計	三浦 彩	(平成 14・栄養士コース卒)
	前田 望	(平成 19・幼稚園教諭・保育士コース卒)
監事	高久 岳博	(事務局長)
顧問	堀 敬紀	(副学長・学科長)
	岡野 節子	(昭和 45・栄養士コース卒)
	福永 峰子	(昭和 53・栄養士コース卒)

新役員及び会計・事業報告は、平成 20 年度総会にて承認予定です。

母校からのお知らせ

同窓生入試の導入（平成 21 年入学者対象）

私たち同窓生に嬉しい入試が導入されました。すべての専攻(生活学・こども学・食物栄養)に適用されます。学び直しも可能です！！

●出願資格

- ①本学在学学生・卒業生本人
- ②本学在学学生・卒業生の配偶者
- ③本学在学学生・卒業生の2親等以内の者(子・孫・兄弟姉妹・親・祖父母)

●特典

上記の①～③に該当する方がこの試験区分で受験し合格した場合、入学金相当(30万円)の奨学金を支給いたします。

●試験内容

小論文と面接、書類審査

21 年度から教職免許更新制が始まります

教員として必要な最新の知識技術を身につけるため、教育職員免許法の改正を受け、平成 21 年 4 月から教職員免許更新制が導入されます。

<対象者>

- ①平成 21 年 4 月以降に授与される「新免許状」は 10 年の有効期間が定められる。
更新のためには、期間内に免許状更新講習の課程を修了することが必要である。
- ②制度導入前に授与された「旧免許状」保持者で受講対象者（現職教員・助教諭・教員採用内定者・講師等）は、一定期間毎に講習の受講を義務付けられる。
概ね毎年度の末日に 35 歳、45 歳、55 歳になる者を、講習対象の修了確認期限とする。
* 最初の講習対象者
昭和 50 年 4 月 2 日～51 年 4 月 1 日、昭和 40 年 4 月 2 日～41 年 4 月 1 日、昭和 30 年 4 月 2 日～31 年 4 月 1 日生まれ
- ③修了確認期限に講習を受講しない場合は「免許状の失効」であるが、講師任用の場合は受講修了すれば有効な免許状を再び取得できる。

<講習内容>

2 年間に、教育の最新事情に関する項目（文部科学大臣の示す内容）12 時間、養護教諭を主な受講対象とする講習 18 時間、計 30 時間以上の講習受講修了が必要である。
* 本学卒者の栄養教諭・幼稚園教諭免許状取得者は、数年後対象になる。

<実施方法>

- ①長期休業期間中や土日に開講する。
- ②大学の講習会、通信制大学の講座、放送大学講座、インターネット、**本学も開催予定。**

対象者や講習会について詳しくは、文部科学省ホームページでご確認下さい。また、本学開催講習会については、詳細が決まりましたら鈴鹿短期大学ホームページでお知らせします。

HP:<http://www.suzuka-jc.ac.jp/>

鈴友会 会計及び事業報告

●決算報告書 (単位:円)

平成18年度報告書(平成18年4月1日～平成19年3月31日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金(定期預金を含む)	3,659,626	印刷代	352,275
終身会費 (H17度 卒業生)	695,000	事務費	16,435
利息 (定期預金含む)	1,065	通信費	557,150
		総会費	93,404
		役員会議費	5,820
		人件費	39,100
		慶弔費	12,026
		終身会費返金 (H17 度生)	10,000
		短大40周年記念式典 (祝花代)	8,400
		短大40周年記念論文集	100,000
		卒業記念品	63,000
		小 計	1,257,610
		次年度繰越金	3,098,081
合 計	4,355,691	合 計	4,355,691

平成19年度報告書(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金(定期預金を含む)	3,098,081	印刷代	44,220
終身会費 (H18 度 卒業生)	650,000	事務費	43,949
終身会費 (H19 度 卒業生)	675,000	通信費	551
利息 (定期預金含む)	5,008	役員会議費	10,200
		人件費	15,100
		慶弔費	18,816
		卒業記念品	66,500
		卒業式花代	15,750
		小 計	215,086
		次年度繰越金	4,213,003
合 計	4,428,089	合 計	4,428,089

※終身会費(H19 年度 卒業生) ¥675,000-含む

上記の通り、ご報告させていただきます。 会計 川村亜由美
 以上、監査するに事実相違ありません。 監査 葛西泰次郎

●事業報告 (平成18年4月1日～平成20年3月31日)

平成18年度	○役員会：5月1日・2月9日 ○総 会：5月13日	*総 会 ○17年度会計・会計監査・事業報告 ○会則改定 ○役員選出 ○18年度事業案
平成19年度	○役員会：6月26日・2月1日 ○幹事会及び役員会：3月8日	*幹事会及び役員会 ○会報発行について ○役員改選について ○ホームページ開設について

平成20年度 鈴友会総会のご案内

平成20年7月5日(土) 午前10時～ 鈴鹿短期大学 511 教室

9:30～ 受付

10:00～ 特別講演 『からだは星からできている

－宇宙に学ぶ人生の歩き方－』

鈴鹿短期大学 学長 佐治 晴夫

12:00～ 総会

12:30～ 茶話会

皆様、お誘い合わせのうえ ぜひお越しください。
 小さなお子様をお連れの方も歓迎いたします。

編集後記

母校は40周年記念誌を発行。その中の座談会(短大の歴史)を抜粋し特集しました。カムバック青春時代。会報や同窓会のホームページで会員相互の親睦、情報交換などに活用。ネットワーク作りをしましょう。皆様、7月の総会にはお誘い合わせの上、ぜひ母校にお集まりください。お待ちしております。

*** 同窓会のホームページができました!! ***

鈴鹿短期大学 HP 内に、同窓会のページができました! 学内外で行われる同窓会関連のイベント、等を掲載予定です。クラス会報告、近況報告等も、こちらからできるようになりました。ぜひ、ご利用ください。

HP: <http://www.suzuka-jc.ac.jp/> (鈴鹿短期大学 HP 内)